



バーゼルワールド2011

パテック フィリップ ジュネーブ
2011年3月

パテック フィリップ 5208 モデル：シングルプッシュボタン・クロノグラフ、ミニット・リピーター、瞬時日送り式窓表示永久カレンダーを搭載した初めての自動巻トリプルコンプリケーション

新しいトリプルコンプリケーション5208Pモデルは、パテック フィリップのグランド・コンプリケーションにおける圧倒的な技術力を立証したといえよう。ミニット・リピーター、シングルプッシュボタン・クロノグラフ、瞬時日送り式永久カレンダーを搭載した5208Pモデルは、あらゆる高度なコンプリケーション機能を統合しているといっても過言ではない。ユニークピースではなく、パテック フィリップの現行コレクションに入るニューモデルであるという点も、特筆すべきである。ジュネーブの時計マニュファクチュール、パテック フィリップにとって《超複雑タイムピース》とは日常とかけ離れたものではないのである。

近年パテック フィリップが《トリプルコンプリケーション》を発表するのは、これが初めてではない。2008年に発表された5207モデルは、ミニット・リピーター、瞬時日送り式窓表示永久カレンダー、トゥールビヨンを搭載したトリプルコンプリケーションである。2011年の今年、シングルプッシュボタン・クロノグラフ、ミニット・リピーター、瞬時日送り式窓表示永久カレンダーを搭載したトリプルコンプリケーションが発表される。このモデルは、クロノグラフを搭載したパテック フィリップとしては初のトリプルコンプリケーションであり、パテック フィリップの愛好家、コレクターから永らく待ち望まれてきたタイムピースである。5208Pモデルはまた、自動巻機構を備えた数少ない超複雑タイムピースでもある。5208Pモデルのいまひとつの特筆すべき点は、シリコン・ベースのハイテク素材Silinvar®を用いたPulsomax®脱進機とSpiromax®髭ぜんまいを採用した初めてのグランド・コンプリケーションであるという事実である。マニュファクチュール パテック フィリップの伝統と革新の融合を象徴するグランド・コンプリケーションということができよう。

新しい5208Pモデルは、パテック フィリップの現行コレクションにおいて、スカイムーン・トゥールビヨン5002モデルに次いで複雑なタイムピースであり、5207モデル（ミニット・リピーター、トゥールビヨン、瞬時日送り式窓表示永久カレンダー）、および5216モデル（ミニット・リピーター、トゥールビヨン、レトログラード日付表示永久カレンダー）よりも上位に位置する。

重層的コンプリケーション

ミニット・リピーター、自動巻、クロノグラフ、瞬時日送り式窓表示永久カレンダーをひとつのムーブメントに統合することは、パテック フィリップ技術陣にとってきわめて大きなチャレンジであった。ミニット・リピーターと自動巻を搭載した基本キャリバーの構造から、クロノグラフ輪列の真（軸）を、ムーブメントの裏側からチャイム機構を貫通して文字盤側に出すことが不可能であった。また曜日、日付、月の窓表示を文字盤上で行なうために、永久カレンダー・モジュールは文字盤直下に配置しなければならなかった。そこで唯一の可能な解決法は、クロノグラフ機構を基本キャリバーとカレンダー・モジュールの間に挟むことであったが、これはきわめて困難な設計上の問題を提起したのである。マニュファクチュール パテック フィリップの長い経験に裏づけられた技術力によってのみ、新しいム



ーブメント、キャリバーR CH 27 PS QIを構成する701個の部品を最適に組合せ、最高の信頼性を保証することが可能となったのである。

第一のコンプリケーション：シングルプッシュボタン・クロノグラフ

パテック フィリップでは、新しい機構の設計開発に当っては、常にタイムピースの美的側面を重視する。パテック フィリップ・シール認定規準にもこの点が含まれている。このため、基本キャリバーと永久カレンダー機能の間に挟まれたコラムホイール・水平クラッチ式クロノグラフ機構は厚さをきわめて薄くすることが必要とされた。パテック フィリップは薄型化技術において豊富な経験を持っている。その例が世界で最も薄いスプリット秒針コラムホイール・クロノグラフ・キャリバーCHR 27-525 PSである。5208Pモデルはこの傑作クロノグラフ・ムーブメントから、摩擦で駆動する分・時積算計を受け継いでいる。この構造は、ムーブメントの厚さを減少させる上で有効であると同時に、クロノグラフ駆動時と停止時のトルクの差を補正するシステムにより、常にテンプの振り角を一定にすることができる。キャリバーRCH 27 PS QIはまた、クロノグラフ輪列の菌型曲線をキャリバーCHR 27-525 PSから受け継いでいる。これは摩擦の軽減とエネルギー効率の向上を実現することができるものである。また、手巻クロノグラフ・キャリバーCH 29-535 PSから、復針レバーの2つのハンマー（クロノグラフ秒、分）の特許取得自動位置決めシステムが受け継がれた。これは分ハンマーの個別切削調整が不要となり、メカニズムの信頼性を向上させるものである。これらの技術革新とクラシックなコラムホイール制御と水平クラッチにより、パテック フィリップ技術陣はクロノグラフ機構の総厚を2.4 mmに抑えることに成功したのである。5208Pモデルは、2時位置のシングルプッシュボタンによりスタート、ストップ、ゼロ復帰をこの順序で行なう《3フェイズ》式クロノグラフである。センターの大型クロノグラフ秒針が数分の1単位で秒を表示し、3時位置に60分計、9時位置に12時間計を備えている。

第二のコンプリケーション：瞬時日送り式窓表示永久カレンダー

瞬時日送り式窓表示永久カレンダーの基本的特徴は2008年発表の5207モデルと同様である。しかし新しくクロノグラフ機構が加わったため、その構造は大きく変更された。クロノグラフ機構は、基本キャリバーとカレンダー・モジュールに挟まれているため、筒カナをクロノグラフ車と同軸に置くことができなかった。このため中間車を介する必要があるが、クロノグラフ機構のスペースが限られているため、設計は困難をきわめ、最適な結果に至るまでには長期にわたる研究が必要であった。筒カナはミニット・リピーターを含む基本キャリバーの表面に接するばかりの高さに配置され、そこで中間車を介して回転運動を横にずらし、クロノグラフ機構の上側で再びセンターの位置に戻される。筒カナはこの位置で時・分針、カレンダー表示、昼夜表示、ムーンフェイズを駆動する。一方スモールセコンドは、基本キャリバーの真（軸）から直接、中間車を介することなく文字盤に至る。

時回り輪列の回転力を最高の効率でカレンダー・モジュールに伝え、かつ真夜中の零時に±2秒の許容誤差ですべての表示を完璧に同期して送るため、5207モデルの特許取得の機構を、新しいムーブメントにあわせて変更する必要があった。この設計変更も複雑であった。なぜならばディスクによるカレンダー表示においては、日送りに必要なエネルギーが指針表示よりもはるかに大きいものとなるからである。15個の部品から構成される大型のレバーが、真夜中の零時にすべてのカレンダー表示を同時に送る役割を負っている。月末の日送りは、何日分送るかが月により大きく異なる（31日から1日に送る場合は1日分だが、平年の2月の場合は28日から1日であるから4日分となる）。何日分送るかに関わらず、日送りに必要な時間は常に一定（すなわち瞬時）にしなければならない。これを行なうのが、互いに反対方向に働く補助的な2個のバネによる構造なのである。この追加的な機構により、ぜんまいが巻上げられて



いない場合に日送りが十分に行なわれなかったり、逆にいっぱい巻上げられている場合に日を送り過ぎるというような欠陥を防いでいるのである。

第三のコンプリケーション：ミニット・リピーター

パテック フィリップのトリプルコンプリケーション5208Pモデルが瞬時日送り式窓表示永久カレンダーを大きな特徴とすることは上に述べた通りだが、キャリバーR CH 27 PS QIは、それに加え時刻を、澄み切った音色のチャイムの音の組合せで知らせてくれるという特徴を備えている。ミニット・リピーターである。

すべての専門家の一致した意見によれば、ミニット・リピーターこそはコンプリケーションの女王である。微小な歯、蝸牛カム、ハンマー、ゴングから構成されるそのメカニズムの製作は、いかに高度な技術を持つ時計製作者にとっても困難である。とりわけ腕時計というきわめて小さなスペースにこれを組込むことは難しい。しかしパテック フィリップは、172年の歴史を通じて《音楽を奏でるタイムピース》の技術を他に類を見ない完成度に高めたのである。それを理解するには、5208Pモデルのスライドピースを操作し、低音が時、高・低音の組合せがクォーター（15分）、高音が端数の分を奏でるのを聞くだけでよい。この奇跡の後にはゴングの材質、フォルム、取り付け方法の長年にわたる研究がある。その技術が秘密となっていることはいうまでもない。こうしてマニュファクチュールパテック フィリップは、愛好家、コレクターからすべてのミニット・リピーター中最高と評価されるパテック フィリップだけの音色を完成したのである。各々のタイムピースの持つパテック フィリップに特有な音色のクオリティは、防音室の中で個別に分析され、多くのパラメーターにより、コンピューターに記憶された基準となるデジタル・データと比較される。しかし音色の美しさは主観的な要素を含むものであるから、パテック フィリップの各々のミニット・リピーターの音色は、ティエリー・スターン社長とフィリップ・スターン名誉会長によって実際に長時間にわたり忍耐強く試聴され、その比類のないタイムピースが将来のオーナーに納入されるべきか、またはさらに工房で音響学的に改善すべきかの判断が行なわれるのである。

シリコン・ベースのハイテク素材 Silinvar® を用いた Pulsomax® 脱進機と Spiromax® 髭ぜんまいを採用

ムーブメントの構造上、新しい5208Pモデルのクロノグラフ機構をケースバックを通して鑑賞することはできない。しかしサファイヤクリスタル・バックを通して比類のない2つの特徴を見ることができる。パテック フィリップがグランド・コンプリケーション・モデルにPulsomax® 脱進機とSpiromax® 髭ぜんまいを採用するのは、これが初めてである。《パテック フィリップ・アドバンス・リサーチ》コンセプトの下に開発されたこの2つの構成部品は、いずれも特許取得のシリコン・ベースのハイテク素材 Silinvar® を用いている。その独自性あふれるフォルムにより、これら2つの構成部品は、キャリバーR CH 27 PS QIのようなマスターピースにさらなる計時精度、信頼性、耐久性を与えている。Silinvar®の他に類を見ない性質（剛性、軽量性、摩擦がほとんどないこと、耐磁性、腐蝕耐性）、およびパテック フィリップ独自の形状により、従来の脱進機よりもエネルギー効率が約30%優れている。この30%のエネルギー利得はすべてクロノグラフ機能に提供されているのである。

シンプルでクラシックなエレガンス

デザインと技術性を完璧に調和させたパテック フィリップのグランド・コンプリケーションは、エレガンスとシンプルさを大きな特長とする。マニュファクチュールパテック フィリップはまた文字盤の視認性に大きな重要性を認めて



《報道資料》 ページ 4

いる。なぜならばパテック フィリップのタイムピースは、いかに複雑なものであっても、タイムピースであるからである。このためパテック フィリップは、直径40 mmに満たないアントラサイト・ソレイユ仕上げのゴールド文字盤の限られたスペース上に、最大の視認性を保証しつつ、ムーブメントが搭載する12種類の機能（時、分、秒、月、昼夜、クロノグラフ秒、分、時間、永久カレンダーの曜日、日付、月、閏年サイクル、ムーンフェイズ）を表示するために、技術力を傾注した。その成果が新しいトリプルコンプリケーション5208Pモデルである。パテック フィリップの年次カレンダーを思わせる文字盤の上部に弧状に3つの表示窓が配置されている。しかしケース左のスライドピースと2時位置のシングルプッシュボタンにより、このタイムピースが年次カレンダー以上のメカニズムを秘めていることがわかるのである。午前零時になると日付、曜日、月、閏年サイクルの表示が瞬時に変わるのである。歯車の回転速度は一定であることを考えれば、この瞬時日送り機構がきわめて高度なメカニズムを秘めていることが想像できるのである。

これらすべての技術的壮举がプラチナ950ケースに収められているが、このケースも驚異的である。ラグをケース本体に統合した通常の構造ではなく、3つの部分（ケースバック、ケース本体、ベゼル）が2本のブランクールの間に挟まれ、これにネジ止めされているのである。この構造によってのみ、ラグにエレガントなオープンワークを加えることを可能にしたのである。このオープンワークを施したラグが5208Pモデルを構造、機構、素材、デザインのすべての面でマスターピースとしているのである。このパテック フィリップの新しいフラッグシップには、マット・ブラックのラージ・スクエア・ハンドステッチ・アリゲーター・バンドと折り畳み式バックルが装着されている。

5208Pモデルは、マニュファクチュール パテック フィリップの伝統と革新の融合を象徴するグランド・コンプリケーションということができよう。その希少性から、5208Pモデルは発表後一定期間は、ジュネーブのパテック フィリップ・サロンでのみ購入することができる。





《報道資料》 ページ 5

《本資料に関するお問い合わせ先》

PP Japan 株式会社

パテック フィリップ ジャパン

A D & P R ディレクター

大塚和泉

電 話：03-5209-8018 (直通)

F A X：03-3256-7558

maruyama@ppjapan.com

《ご掲載いただく場合の読者お問い合わせ先》

パテック フィリップ ジャパン・インフォメーションセンター

電 話：03-3255-8109

《パテック フィリップ ホームページ》

<http://www.patek.com> (英語)

For more information, please contact:

Jasmina Steele

International Communication and Public Relations Director

Patek Philippe Geneva

P.O. Box 2654

1211 Geneva 2

Tel.: +41 22 884 20 20

Fax: +41 22 884 25 47

Or visit our website: www.patek.com





技術仕様

プラチナ仕様5208モデル：シングルプッシュボタン・クロノグラフ、ミニット・リピーター、瞬時日送り式窓表示永久カレンダーを搭載したグランド・コンプリケーション

ムーブメント	キャリバーR CH 27 PS QI 自動巻ムーブメント、ミニット・リピーター、スモールセコンド。コラムホイール式シングルプッシュボタン・クロノグラフ、クロノグラフ秒針、60分計、12時間計。瞬時日送り式永久カレンダー、曜日・日付・月・閏年サイクル・昼夜を窓表示。ムーンフェイズ。
寸法：	32 mm (ミニット・リピーター、クロノグラフ・ムーブメント：28 mm、瞬時日送り式永久カレンダー：32 mm)
総厚：	10.35 mm
部品総数：	701個 ミニット・リピーター：331個 クロノグラフ：160個 瞬時日送り式永久カレンダー：210個
石数：	58石
連続駆動可能時間：	最大48時間
テンプ：	ジャイロマックス・テンプ
振動数：	21,600 振動 (片道) / 時 (3 Hz)
髭ぜんまい：	Spiromax®
脱進機：	Pulsomax® (Silinvar®製アングルとガンギ車)
ヒゲ持ち：	可動式
セッティング機能：	リュウズの2位置 ・押し込んだ位置：ぜんまいの巻き上げ ・引き出した位置：時刻合わせ クロノグラフ・プッシュボタン (2時位置)： シングルプッシュボタン《3フェイズ》式クロノグラフ (スタート、ストップ、ゼロ復帰)
表示：	時針・分針 (センター) クロノグラフ秒針 (センター) サブダイヤル： ・スモールセコンド (6時) ・60分積算計 (3~4時) ・12時間計 (8~9時) 表示窓： ・曜日 (10~11時) ・日付 (12時) ・月 (1~2時)



- ・ ムーンフェイス (6時)
- ・ 昼夜表示 (7～8時)
- ・ 閏年サイクル (4～5時)

調整ボタン：

- ・ 曜日調整ボタン (11～12時)
- ・ 月調整ボタン (12～1時)
- ・ ムーンフェイス調整ボタン (5～6時)
- ・ 日付調整ボタン (6～7時)

18金ホワイトゴールドの象嵌を施した黒檀のファンクション・ペンシルが付属

ミニット・リピーター：低音が時、高・低音の組合せがクォーター (15分)、高音が端数の分

刻印：

パテック フィリップ・シール

外 装

ケース：

プラチナ950、ラグにオープンワーク、サファイヤクリスタル・バックと通常のケースバックが共に付属、ケース6時位置に約0.02カラットのダイヤモンドをセッティング

寸 法：

ケース径： 42 mm
厚 さ： 15.70 mm
ラグ幅： 20 mm

スライドピース：

ケースに統合されたプラチナ950のスライドピースでミニット・リピーターを起動

文字盤：

アントラサイト・ソレイユ文字盤
11個の18金ホワイトゴールド植字バレット型インデックス
18金ホワイトゴールド・ドフィーヌ型時・分針
18金ホワイトゴールド・ホワイト塗装バトン型クロノグラフ秒針
18金ホワイトゴールド・ホワイト塗装バトン型スモールセコンド、12時間計、60分計
指針
外周にシュマン・ド・フェール (ルール) 型分スケール
日付、曜日、月表示窓にホワイトゴールド・ダイヤモンド研磨フレーム

革バンド：

ラージ・スクエアのハンドステッチ・アリゲーター・バンド、カラーはマット・ブラック、プラチナ折り畳み式バックル付

